

大日本
地誌大系 新編武藏風土記稿例言

一 本大系は、もと日本歴史地理學會の計畫に係り、その後大日本地誌大系刊行會之を繼承し、同學會校訂のもとに編輯發行せしものなりしが、故ありて一時其刊行を中止し、今回再び是を復興繼續するものなり。

一 本卷には、新編武藏風土記稿二百六十五卷の中、首卷より卷之第二十までを收載せり。

一 新編武藏風土記稿は、大學頭林衡の建議により、徳川幕府の編纂に係る、而して衡命を奉じてこれが總裁となり、局を昌平坂學問所に開き、間宮士信、松崎純庸、三島政行、神谷信順、井上常明等をして之を補佐せしめ、郡毎に分擔を定めて其編輯に従はしむ、從員前後を通じて凡四十餘人、文化七年初めて久良岐郡に稿を起し、文政十一年新座郡の重修を以てこれを完成す、尋て淨寫を終り、天保元年之を幕府に上る、其間實に二十餘年、洵に武藏國に關する地誌の一大權威と云ふべし、尙其纂輯者の姓名及趣旨沿革並に記述の體例等の如きは、本書首卷の例義及卷末の附録に詳なれば、今之を省略せり。

一 本卷は、印刷上の便宜により、明治十七年印行の活字本を以て底本となせり、されど明かに誤字脱落と認めしものは、努めて之を補正し、特に本書中に引用せる諸典籍は、概ねその原據に